

平成 29 年度 一般財団法人新潟県建設技術センター研究助成事業

女子防災力を活かした普及啓発に関する事業
～ながおか女子防災プロジェクト～
活動報告書

平成 30 年 3 月

公益社団法人中越防災安全推進機構

地域防災力センター

目次

1. 事業の概要	1
(1) 背景と目的	1
(2) 事業の内容	1
2. 実施体制	2
3. 活動経過	3
4. ほんねカフェ I の開催	4
(1) 趣旨	4
(2) 当日の流れと内容	4
(3) 開催結果	6
5. ほんねカフェ II & さいがい食ランチの開催	8
(1) 趣旨	8
(2) 当日の流れと内容	8
(3) 開催結果	10
6. SNS による情報発信	13
7. 総括 ～今後の展開に向けて～	14
8. 参考	16

1. 事業の概要

(1) 背景と目的

地域の防災力を高め、災害に強い地域づくりを推進するためには、住民に対する防災意識の向上が不可欠となっています。しかし防災意識の高い住民は決して多くはなく、従前のやり方では、防災に関心の低い住民に対する普及啓発は難しいのが実情です。

また、地域の防災活動をけん引している住民は男性が圧倒的に多く、女性の参加・参画が強く望まれています。

近年はインターネットや SNS を効果的に活用した情報発信・交流が盛んです。上記の課題解決に向けて、これらの情報技術を有効に活用するとともに、女性の視点や活力を積極的に取り入れながら、新しいやり方で防災意識の向上を図っていくことが極めて重要と考えられます。

現在、長岡市では、平成 24 年度に長岡市消防団広報指導分団（以下、長岡フェニックスレディース）、平成 28 年度には中越市民防災安全士会女性部（以下、シュークリーム）、防災科学技術研究所気象災害軽減イノベーションセンター長岡サテライト女子部（以下、長岡サテライト女子部）が結成されるなど、女性の力を活かした防災活動が展開されつつあります。

本事業では、これら各団体の関係性を構築するとともに、SNS などを活用して各団体の活動等を発信することにより、女性の力を活かした新たな動きを作り出し、地域防災力の底上げを図ることを目的とします。

(2) 事業の内容

長岡フェニックスレディース、シュークリーム、長岡サテライト女子部の 3 団体は、これまでほとんど接点がなく、現在はそれぞれが単体で活動している状況にあります。今後はお互いに刺激を与え合うことで、一層の活躍・発展が期待されています。

したがって、本事業では、各団体のリーダー、構成メンバー、防災や IT の専門家等が連携して、自分たちの活動を広く発信したり、合同イベントを企画・開催したり、新しい防災コンテンツを制作するなど、新たなチャレンジを試みる「ながおか女子防災プロジェクト」（平成 29 年度限定）を実施しました。

具体的には、実施体制を組織し、メンバーが定期的に集まって情報交換及びイベントの企画・反省などを行うとともに、SNS を活用し、女性ならではの感性や視点に立った情報発信を試みました。また、本プロジェクトを振り返っての意見交換、次年度以降の展開についての検討も行いました。

2. 実施体制

ながおか女子防災プロジェクトの実施体制は、表 1 のとおりです。本プロジェクトの仕掛け人 6 名、活動団体 6 名、専門家 2 名、長岡市 3 名の合計 17 名で構成されています。

表 1 ながおか女子防災プロジェクトの構成メンバー

区分	氏名	所属・役職
活動団体	酒井 敦子	長岡フェニックスレディース 分団長
	須田 珠江	長岡フェニックスレディース 副分団長
	土田 直美	中越市民防災安全士会女性部 シュークリーム 部長
	石黒 みち子	中越市民防災安全士会女性部 シュークリーム 副部長
	山崎 麻里子	中越市民防災安全士会女性部 シュークリーム 副部長
	小此鬼 麻未	中越市民防災安全士会女性部 シュークリーム
専門家	小杉 聖	コスギス 代表
	小島 由記子	長岡工業高等専門学校 環境都市工学科 助教
長岡市	神田 健太郎	長岡市危機管理防災本部 防災強化担当係長
	杉田 世里香	長岡市危機管理防災本部 主事
	山岸 英樹	長岡市消防本部 総務課消防団係 係長
仕掛け人	諸橋 和行	公益社団法人中越防災安全推進機構 地域防災力センター長 ※本事業の統括・責任者
	松田 曜子	長岡技術科学大学工学研究科 環境社会基盤工学専攻 准教授
	高橋 正子	気象災害軽減イノベーションセンター長岡サテライト女子部 新潟工科大学 キャリア・産学交流推進課
	田中 栄二	株式会社 muku. 代表取締役
	長島 あさこ	株式会社野村防災 長岡フェニックスレディース
	布川 千春	気象災害軽減イノベーションセンター長岡サテライト女子部 中越市民防災安全士会女性部会 シュークリーム

3. 活動経過

本年度の活動経過を整理すると表 2 のとおりです。メンバー全員が集まるコアメンバー会議を計 6 回、仕掛け人が集まる仕掛け人会議を計 4 回開催しました。

表 2 ながおか女子防災プロジェクトの活動経過

日時・場所	会議内容
3月29日(水) 13:00~15:00 長岡震災 AC きおくみらい	仕掛け人会議(第1回) ・プロジェクトの概要
4月13日(木) 15:00~17:30 長岡震災 AC きおくみらい	コアメンバー会議(第1回) ・各団体の紹介 ・本プロジェクトの趣旨・内容に関する意見交換
4月26日(水) 10:00~12:00 長岡雪氷防災研究センター	仕掛け人会議(第2回) ・防災についての本音とは何か
5月29日(月) 15:00~17:15 長岡大学	コアメンバー会議(第2回) ・ほんねカフェⅠの趣旨、テーマ、プログラム
7月5日(水) 13:30~15:30 長岡雪氷防災研究センター	仕掛け人会議(第3回) ・ほんねカフェⅠのプログラム、準備、役割
7月25日(火) 19:00~21:00 まちなかキャンパス長岡 4F	「ほんねカフェⅠ」の開催 ～防災への本音、語っちゃおう。～
9月5日(火) 13:00~14:30 長岡市内	仕掛け人会議(第4回) ・ほんねカフェⅠの振り返り
9月22日(金) 11:00~12:00 長岡雪氷防災研究センター	仕掛け人会議(第5回) ・ほんねカフェⅡの企画
11月1日(水) 14:00~16:00 まちなかキャンパス長岡 301	コアメンバー会議(第3回) ・ほんねカフェⅡの企画
12月5日(火) 9:30~11:30 長岡震災 AC きおくみらい	仕掛け人会議(第6回) ・ほんねカフェⅡのプログラム、準備、役割
12月9日(土) 10:00~15:00 長岡震災 AC きおくみらい	「ほんねカフェⅡ & さいがい食ランチ」の開催 ～防災への本音、語っちゃおう。～
1月11日(木) 10:00~12:00 ながおか市民防災センター	コアメンバー会議(第4回) ・ほんねカフェⅡ及び本事業の振り返り ・今後の方向性と活動提案

4. ほんねカフェ I の開催

(1) 趣旨

長岡フェニックスレディース、シュークリーム、長岡サテライト女子部の3団体の関係性を築くため、お互いの活動を知るとともに、各団体に所属するメンバーどうしが気軽に集い、防災について日頃から考えていたり感じたりしていることを本音で語り合うイベント「ほんねカフェ」（長岡ほんねカフェ 2017 防災への本音、語っちゃおう。）を開催しました。

(2) 当日の流れと内容

18:00	スタッフ集合・準備
18:40	開場・受付
19:00	開会・趣旨説明
19:05	各団体の紹介（各 10 分 計 30 分） ・長岡フェニックスレディース ・シュークリーム ・長岡サテライト女子部
	（ドリンクタイム）
19:35	ワールドカフェ（15分×3回） ・ワールドカフェの説明 ①1回目（19:40） ・自己紹介：名前、所属、現在の活動にいたるきっかけ ・防災についての思い、心構え、ポリシー、難しさ、やりがいなどを話し合う ②2回目（19:55） ・テーブルチェンジ&ドリンクタイム ・自己紹介 ・ファシリテーターが1回目のトークの概要を紹介 ・フリーに意見を出し合う ③3回目（20:15） ・テーブルチェンジ&ドリンクタイム ・ファシリテーターが2回目のトークの概要を紹介 ・フリーに意見を出し合う ④ファシリテーターよりグループごとの様子を発表
20:40	全員から一言感想
20:50	SNS 情報発信のお願い
21:00	閉会

防災への本音、語っちゃおう。



nagaoka joshi bosai project

長岡

ほんねカフェ

2017



ながおか
JBP

概要

長岡には女性が活躍している団体がたくさんあります。その中で防災に関わっている長岡市消防団広報指導分団「長岡フェニックスレディーズ」、中越市民防災安全士会女性部「シュークリーム」、防災科研長岡サテライト女子部のみなさんにお集まりいただき、珈琲を飲みながら防災について語りあう「ほんねカフェ2017」を開催いたします。

お互いの活動を知り、それぞれの取組や日々の生活の中で、防災について感じていること（いざやるとなると大変、人に伝えるのは難しい、正直めんどくさいかな、そこまでやる必要があるの etc）、考えていること（こんなアイデアがある、こうすれば楽しくなる etc）など、ほんねで語りあいましょう！

上記の3つの団体以外の方、防災にあまり関心のない方の参加も歓迎です。たくさんの方からのご参加をお待ちしております。

参加費
無料
男性も歓迎！

2017.7.25(火)
19:00 → 21:00

【会場】
まちなかキャンパス 4F 交流広場
〒940-0062 長岡市大手通2-6 フェニックス大手イースト4F

【駐車場】
大手通地下駐車場か表町駐車場に駐車ください。
駐車券をお渡しいたします。

お申し込み方法

申込締切7月19日(水)



「ながおか女子防災プロジェクト」で検索
▶ イベント参加ボタンをクリック。

もしくは



所属・氏名・電話番号をご記入の上
下記メールにてお申し込みください。

nunokawa@cosss.jp

主催：ながおか女子防災プロジェクト

図1 ほんねカフェ I のチラシ

(3) 開催結果

イベント当日は 20 名の参加者があり(スタッフ含む)、次のような感想が寄せられました。

図 2 参加者の年代 (N=13)

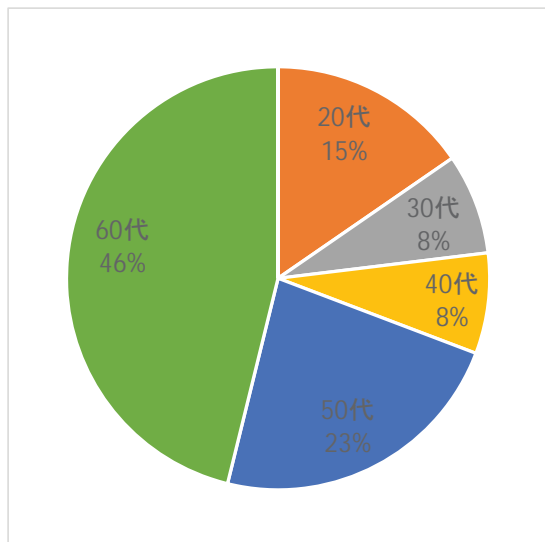
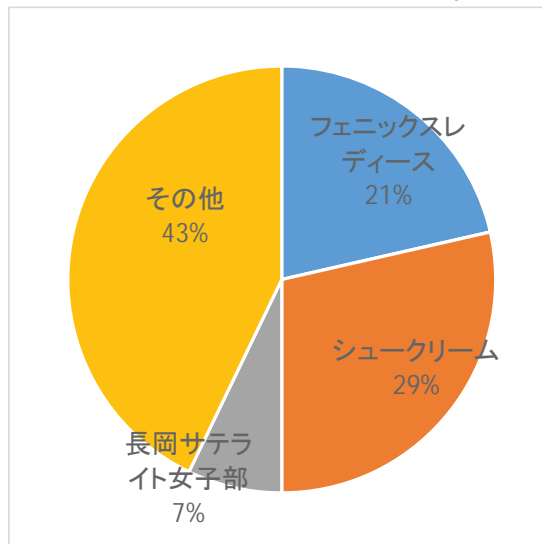


図 3 参加者の所属 (N=14)



<どのような関心や期待があり参加したか>

- ・他団体の女子部の活動や、防災に対する思いを（ほんね）知りたく参加。
- ・防災のことについて詳しく知れるかな。
- ・色々な方々と出逢いたい。
- ・どんなことが困っているか、困ったか。なんで防災に関心を持ったか。
- ・女性で防災に関わる方々のお話をお聞きし、今後の活動に活かしたいと思いました。他の団体がどんな活動をしているか知りたいと思いました。
- ・同じく活動している人の話が聞きたかった。
- ・防災に興味を持つ、活動を行っている女性の団体がほんねを言い合い、防災について話し合う場は初めてだったので、他の団体の活動内容など興味がありました。
- ・どのような方が防災に意欲的に取り組んでいるかについて。
- ・各グループの活動内容が知りたくて。
- ・どのような方がいらっしゃるのか知りたかった。
- ・何を話されるかもわからずの参加でしたが、近々な活動をされている方との話し合いが楽しかったです。
- ・全く分からない状況で出席しました。色々な方の話を聞くことができました。
- ・「お誘いを受けて」というのがほんねでした。あまり期待はなかったのですが、参加してみて驚きでした。

<グループワークよかった点、参加者の発言で印象に残っているものは>

- ・関心の無い人に防災（自助）を伝える方法。
- ・異年代・業種の人と話せて参考になりました。長岡に女性の防災グループがあると始めて知りました。
- ・時間が短すぎ、もっともっと話したり、聞いたりしたかった。15分では時間が短すぎ。特に印象に残らなかった。
- ・90 才になると助けてほしいと思う。

- ・ハンディキャップの方への支援は。
- ・それぞれの立場でほんねを話すことができよかったです。“つながる大切さ”関心のない人に知らせる”
- ・勧告って何？いろいろな言葉があり、注意なのか、避難なのか迷った。地震もそうだが慣れっこになっている。
- ・一人で被災した時は、家族や誰かと一緒の時とぜんぜん違うということ。
- ・「出先の防災」外出時の災害対策も重要だと感じました。近年 SNS 等普及しているため、災害時「誰ともつながらない」恐怖もあるのだなと思いました。
- ・短時間ではあったが、協力できそうなニーズに出会えた。
- ・いろいろな人と出会えたことにつきます。
- ・ほとんど自己紹介でしたが、これからの活動について考えているということ。広がるといいですね。
- ・年代の違う、職業の違う方、防災についての考えを、立場の違いでの考え方を勉強させていただきました。
- ・知らなかった女子の団体。皆さんすごい！
- ・年齢を超えて、話ができただのも良かった。3 グループにも感心しました。若い方たちが発信するのはやはり方法が「上手い」と思いました。

<感想・意見>

- ・一口で防災と言っても、立場によって感じ方も異なっているように思ったが、この回を重ねていけたらうれしい。
- ・また次があったら参加したいです。
- ・楽しかったです。
- ・ぜひ、今後もこの活動を続けて頂きたい。
- ・もっと多数の参加があればと思いました。
- ・いろいろな業種、世代の方とお話できて、とても楽しかったです。
- ・とても楽しい会でした。
- ・次回が楽しみです。
- ・たくさんの方と交流できて楽しかったです。
- ・やってみるもんですね。
- ・2回目どうしましょう。
- ・楽しかったです。ありがとうございました。
- ・次回があったら出席したいと思います。誘ってくださった方にありがとう！
- ・少しずつ広めていけたらいいですね。



5. ほんねカフェⅡ & さいがい食ランチの開催

(1) 趣旨

ほんねカフェⅠが大変好評であり、次回の開催を望む声が多かったため、前回同様のイベントとして、「ほんねカフェⅡ」を開催しました。その後、シュークリームの協力のもとで「さいがい食ランチ」を開催し、さらに午後は防災科学技術研究所気象災害軽減イノベーションセンター長岡サテライトが主催する防災まち歩きプログラム「防災今昔写真」を合同で実施しました。

(2) 当日の流れと内容

9:00	スタッフ集合・準備
9:30	ほんねカフェⅡ 開場・受付
10:00	開会・趣旨説明
10:05	各団体の紹介（各5分） ・長岡フェニックスレディース ・シュークリーム ・長岡サテライト女子部 ・新潟まんが事業協同組合 ・長岡市学生消防団
	（ドリンクタイム）
10:30	ワールドカフェ（15分×3回） 〈テーマ〉 ①わかっているけど防災なぜできない？ ②女性だからこそ防災 ③子育て中だからこそ防災 ④防災に一步踏み出すとしたら何から ⑤楽しい防災訓練を提案 ⑥おもいっきり防災自慢・ワールドカフェの説明
11:40	グループ発表／全員から一言感想
12:00	ほんねカフェⅡ 終了
12:05	さいがい食ランチ 開始 準備・調理（11:00から）、盛り付け、配膳、食事、後片付け
12:45	さいがい食ランチ 終了
13:00	防災今昔写真 開会 趣旨説明、本日の流れ、参加者自己紹介
13:20	写真（長岡市中心部の昭和38年豪雪、平成23年水害）の説明
13:30	現地取材・写真撮影
15:00	振り返りワークショップ・成果発表
15:30	防災今昔写真 閉会

★ なおか JBP

★ 防災への本音、語っちゃおう。 ★

nagaoka-joshi-bosai-project-2017

長岡 ほんねカフェII

2017.12.9(土)

- ① ほんねカフェII 10:00 ~ 12:00
- ② さいがい食ランチ 12:00 ~ 13:00
- ③ 防災今昔写真 13:00 ~ 15:30

会 場：長岡震災アーカイブセンター きおくみらい
長岡市大手通2-6 フェニックス大手イースト2F

大手通地下駐車場が夜間駐車場に駐車ください。
駐車券をお渡しいたします。

参加費無料
男性も歓迎!

ほんねカフェ3つのプログラム { 興味があるプログラムよりご参加いただけます。 }

プログラム 1 **ほんねカフェII** 9:30受付

防災に関わっている女性だけでなく、様々な活動をされている方に集まっていただき、珈琲を飲みながら防災の本音について語り合います。

参加団体
長岡フェニックスレディース
シュークリーム
防災科研長岡サテライト女子部
新潟まんが事業協同組合 他

左記団体以外
の方の参加も
大歓迎!

プログラム 2 **さいがい食ランチ**

普段は食べることができない災害食・非常食を参加者で食べてみませんか?



プログラム 3 **防災今昔写真** 12:30受付

スマホアプリを利用して、長岡市内の豪雪時や水害時の写真と今の風景を比較するワークショップを開催いたします。

主 気象災害軽減イノベーションセンター
長岡サテライト
副 気象災害軽減コンソーシアム
協力：カマコン/LIFE VIDEO



お申し込み方法

申込締切：12/1 (金)



なおか女子防災プロジェクト



「なおか女子防災プロジェクト」で検索
→ イベント参加ボタンをクリック

or



nunokawa@cosss.jp

所属・氏名・電話番号・参加プログラムを
ご記入の上メールにてお申し込みください。

主催：なおか女子防災プロジェクト（事務局：中越防災安全推進機構） 協力：長岡市

図4 ほんねカフェIIのチラシ

(3) 開催結果

ほんねカフェⅡには、38名の参加者があり（スタッフ含む）、次のような感想が寄せられました。

図5 参加者の年代（N=24）

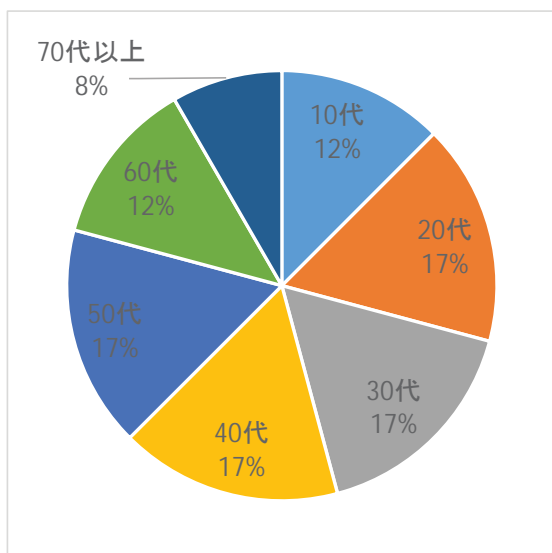
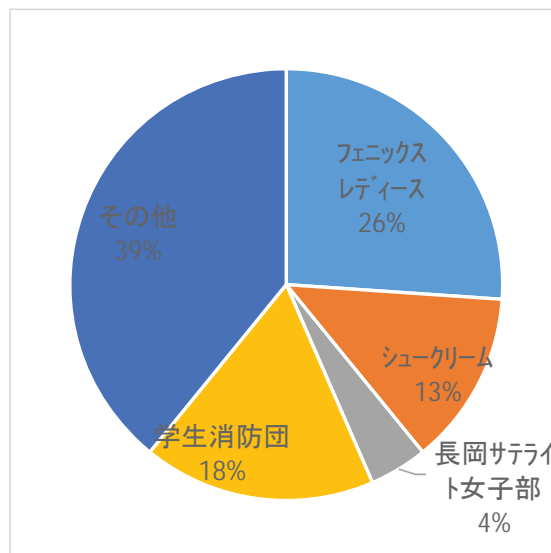


図6 参加者の所属（N=23）



<どのような関心や期待があり参加したか>

- ・人のホンネのところ聞けたら、防災のカベはイイか？
- ・長岡市内でどのような取組がされているか、どんな団体が活動しているのかを知りたかった。
- ・民間と行政の連携が深まるように。
- ・参加者と仲良くなりたいなと思って参加しました。
- ・みなが同じ関心ごとに向き合い、活発な話し合いに興味があり、前回も楽しく参加できたので。
- ・他の人はどんな防災の思いがあるのか知りたい。
- ・地域で活動されている方々との出会いや、普段感じていらっしやる想いを聞きたい。
- ・この様な意見交換会に以前より興味があったため。
- ・他の人はどのような防災を取組んでいるのか。
- ・2回目の参加になります。いろいろな話を聞きたいと思いました。
- ・防災等について、多くの世代、立場から話を聞く、意見交流を行うことで知識を身につけ、理解を深めること。
- ・“防災”というテーマからどんな話し合いになるんだろうと思いました。
- ・同じく防災意識を持った人々と意見の交換をしたい。
- ・自分自身にもっと防災意識を持てるようになりたいと思った。
- ・防災の活動されている他の団体の方の意見が伺えること。
- ・「子育て安心避難所」の会議メンバーでもあり、関心があった。
- ・防災への意識を高めたいと思い、参加しました。
- ・震災の経験があり、防災について興味があった。地元なので参加したかった。
- ・防災に対して知識が深められると思ったから。意見交換ということでさまざまな意見を聞けると思ったから。
- ・防災についての意識向上。色々な人の話を聞けること。
- ・参加された方々が防災について、どのように思っているのか聞きたかったから。
- ・年代を超えた考え方、行動が知りたかった。若い人の考え方を特に。

- ・最近福島を訪れる機会がありました。長岡市は柏崎刈羽原発の風下にあり、その危険性は福島の高比ではないことに改めて自分の中にある「安全バイパス」のこわさを認識したしいです。とにかく話をしたかった。つながりたい。

<グループワークよかった点、参加者の発言で印象に残っているものは>

- ・いろいろな立場の方の考え方。原子力防災の話題になったのは意外だった。
- ・色々な立場の人の話が聞けたのが一番良かった。時間が足りない。複数テーマでなくても、一つのテーマでもっと時間をとって話せると良いと思う。
- ・避難所では「全てをしてあげてはダメ！！」ということ。
- ・みんな思っていることは同じなんだなあと思いました。と言うことは、協力すれば進められる！ということだなあと思いました。
- ・女性の細やかな視点から話し合いが進められ、デリケートな部分を行政に繋げてほしいと思います。子どもを力を使い、学校と地域が一緒になった訓練ができると良いと感じました。
- ・「女性ならではの気配り」「人の尊厳」確かにそうだと感じた。
- ・多世代、いろいろな所属（業種）間の様々な話が聞けて面白い。
- ・色々な立場の人、年代の人が混ざり合って話す場で、新しく気づくことが多いと思えた。
- ・普段聞けない年代の方の考えを素直な観点で話せたり、聞けたりできたこと。
- ・「全てをしてあげてはダメ」人の尊厳が失われる。
- ・テーマは難しく、迷いましたが、色々なお話が聞けてよかったです。
- ・年齢層が幅広く、色々な話を聞くことができた。女性ならではの話ができてよかった。
- ・女性ならではの防災で、若い女性は思っていることをなかなか口に出しづらいという意見が出て、お母さんくらいの年齢の方なら頼りやすいという意見が印象的でした。
- ・普段、話す機会が無いであろう人々と話すことが出来て、得るものが多かったです。
- ・多くの方の意見が聞けてよかった。活動の違う他の団体の方と交流できた。
- ・他の防災活動の具体的なことが聞くことができ、今後の活動に活かしていきたい。
- ・世代の違いもありそれぞれの気持ちや感覚を学ぶことが出来たと思う。勉強になりました。
- ・世代を超えて沢山の意見を聞いてよかったです。
- ・防災、地域の活動が様々あることがわかり、勉強になった。
- ・多人数の前で話すことが苦手なので、少人数でのグループワークは話しやすかった。
- ・違う世代や立場、団体の人からのたくさんの意見や考えを聞いた。防災について考える良い機会になった。
- ・子ども達と地域の人達と一緒に防災について話し合ったり、訓練したら良いと言われたこと。
- ・いち市民が具体的に声を上げたことによって、防災につなげた事例を教えていただきました。市民が声をあげることが大切だと思いました。「話すこと」が楽しい。ありがとうございました。
- ・町内の防災訓練の状況がわかった。

<感想・意見>

- ・経験を語る場が必要と思いました。
- ・自分のため—自己消化、人のため—知識普及。
- ・防災を意識することは、普段あまりないが、これだけの人が対場の違いはあるけど、集まって話をすることが素晴らしいと思う。こういう横のつながりが増えると良い。
- ・もっと話し合う時間がほしい。行政を動かす力をみんなで作りたい。
- ・とても有意義な話し合いができ、ぜひ次回開かれることを楽しみにしています。
- ・もう少し時間がほしいと思いました。
- ・これを入り口として、継続的な活動に発展していくと良い。
- ・これからも続けていってください。

- ・もっと話し合う時間がほしかった。
- ・スタッフのみなさんありがとうございました。
- ・お茶とお茶菓子が用意されていて、話しやすかった。(カフェっばい)
- ・自分の思っていた防災は、狭い世界だったなあと感じました。今日の話聞いてとっても感動しました。ありがとうございました。
- ・もう一步踏み込んだテーマでグループワークをしても良いと思います。例「どうすれば防災意識は広がる」「いざという時、何が出来る」
- ・また、次回も参加したい。時間が足りなかった。
- ・その他の活動されている方の内容をもっと知りたかった。
- ・ネット発信もよい方法だと思う。(自宅で学習できるから) 各コミセンを通じた何かが出来る方が良いか？
- ・このような機会がもっと沢山、広い範囲で行って行けるといいなと思います。貴重な経験をありがとうございました。
- ・長岡市の防災への取組について、力を入れてくれているんだなあと感じ、嬉しかった。
- ・カフェスタイルというのがあるのもあって、楽しみながら意見交換することが出来ました。このような場がなかなかないので、貴重な経験をすることが出来ました。次回も参加したいです。ありがとうございました。
- ・普段防災について深く考えることがないから、この機会に考えられて良かった。もっと災害に向けた準備をするべきなのだろうと思えた。
- ・今まで存在を名前だけだったり知らなかったグループの人たちと話をしたことは、とても嬉しいことでした。長岡市がこのような場を設けてくださることは本当に防災にとって意味があることです。ぜひ続けてください。
- ・防災訓練について日ごろ感じていることが言えた。同感してくださる方がいらっやって心強かった。



6. SNSによる情報発信

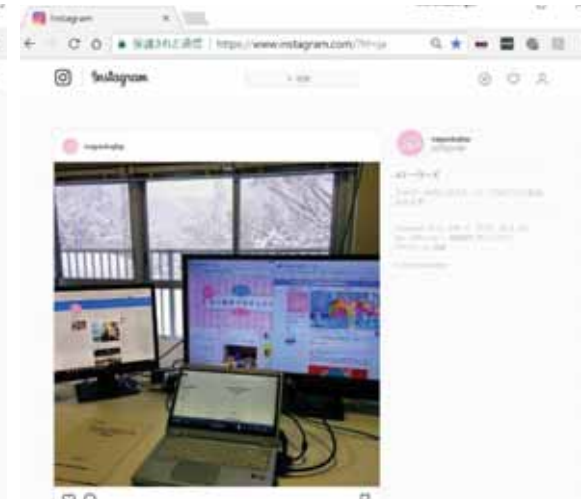
Facebook



twitter



Instagram



#ながおか女子防災



7. 総括 ～今後の展開に向けて～

交流のきっかけづくり

本事業の一番の目的は、長岡市で活動している長岡フェニックスレディース、シュークリーム、長岡サテライト女子部の3団体において、お互いの存在と取組内容を知り、今後のそれぞれの活動においても、メンバーが交流・連携するきっかけを作ることでした。

そのため、各団体の代表者が集まって話をする「コアメンバー会議」を繰り返し開催するとともに、計2回のイベント「ほんねカフェ」の開催を通して、その目的を達成することができました。

ほんねカフェの効果

当初、3団体合同のイベント開催は、「できたらいいな」と考えていましたが、「必ずやらねば」とまでは考えていませんでした。お互いが顔も知らない中で、イベントの企画・開催を一方向的に持ちかけても、「押しつけ」と思われ、「やらされ感」しか感じないと思ったからです。まずは丁寧に、お互いが顔を合わせる機会を作り、メンバーから出た意見を積み重ね、その結果として、「珈琲を飲みながら、初めて会う人とも気軽に防災の本音を語っちゃおう」を基本コンセプトとした交流イベント「ほんねカフェ」が誕生しました。

参加者の反応は本書に記載したとおり、大変好評であり、最初は1回きりの予定でしたが、次回を望む声が多数寄せられたため、急遽、スケールアップした形で第2回を開催することにしました。こちらも大成功に終わり、3団体のメンバー間の交流が一層進み、さらに「防災」及び「女性」という視点で3団体以外の多くの方ともつながりを作ることができました。

SNSによる情報発信

本事業のもう一つの目的は、SNSを活用した普及啓発です。Facebook、twitter、Instagramのアカウントを作り、ほんねカフェI及びほんねカフェIIの当日は、これらのSNSでリアルタイムに情報を発信し、多くの方に取組を知ってもらうことができました。

また、3団体の日頃の活動をそれぞれのメンバーからSNSで随時アップしてもらい、これを「#ながおか女子防災」というハッシュタグで統合して発信するという仕組みを考え、実証を始めましたが、普段からSNSで発信しているメンバーがほとんどいなく、情報の更新が困難であったため、途中で断念しました。

本事業を通じて、「SNSを活用して、防災に対してあまり関心のない人たちにも届くように情報発信を行う」ということは、決して簡単なことではなく、かなりの労力（専属スタッフ含む）、協力者、専門的スキルが必要であることがよくわかりました。この経験をもとに次の展開を検討したいと思います。

今後の展開

最終のコアメンバー会議において、長岡フェニックスレディース、シュークリーム、長岡サテライト女子部のいずれの団体も、「ほんねカフェ」などを開催しながら、今後も交流を継続していきたいということで話がまとまりました。

一つの理想的な方向としては、各団体が持ちまわりで交流の場をセットしていくことが考えられますが、現状ではそこまでの準備や体制は整っていません。

そこで、まず次年度の継続を考え、防災科学技術研究所気象災害軽減イノベーションセンター長岡サテライトと公益社団法人中越防災安全推進機構が幹事役となり、今年度と同様の進め方で、ほんねカフェ（内容は適宜協議・検討、年1回程度）を企画・開催したいと考えています。

「珈琲を飲みながら、気軽に防災の本音を語っちゃおう」というコンセプトは継承し、各団体の活動紹介、防災ゲームの体験、新しい技術や制度についての研修会など、様々な要素を取り込んで、女子防災力を活かした活動がさらに発展・活発化していければよいと思います。

最後に、本年度はトライアルということもあり、助成金をいただいて交流事業を行いました。その意義や効果もある程度実証できました。次年度以降については、本活動の継続を各団体においても正式な業務として位置づけ、主体的に関わっていただく中で、楽しくそして無理なく継続できる形を模索していければと考えております。

8. 参考

新潟日報 朝刊 平成 29 年 8 月 10 日



防災強化 女性目線で

消防団員らがプロジェクト

長岡市の女性の消防団員や防災士が、女性の視点で防災力の向上を目標として「ながおか女子防災プロジェクト」を立ち上げた。会員制交流サイト（SNS）などでの情報発信やイベント開催などで、幅広い世代に防災活動への参加を促す考えだ。

連携深め、情報発信へ

市内では、女性消防団「ブエニックスレディーズ」や中越市民防災安全委員会女性部「シユークリーム」、防災科学技術研究所気象災害軽減イノベーションセンター「長岡サテライト女子部」が結成され、それぞれ女性の視点や活力を生かした活動をしている。

ただ、依然として地域防災の担い手は年配の男性が大半で、女性や若い世代が参加している地域は多くないのが実情だ。防災に関する女性団体もこれまで、横のつながりがあまりなかった。プロジェクトは各団体が連携して情報発信や啓発活動を行うことで、防災に関心が薄い人たちにも防災活動への参加を促そうと設立された。

「ほんねカフェ」で防災について語り合うプロジェクトのメンバーら
長岡市のまちなかキャンパス長岡

7月25日には取り組みの第一弾として、長岡市大通2のまちなかキャンパス長岡で、防災についての思いを語り合う「ほんねカフェ」を開催。プロジェクトのメンバーらが「乳幼児の安全を守るための情報提供が必要」「防災を子育てなど身近な問題と結びつけることで関心を高めたい」といった意見を出し合った。

今回出た意見などを踏まえ、SNSでの情報発信に力を入れるほか、各団体の合同イベント開催などで連携を深めていくことにした。

安全士会女性部の会社員、小此鬼麻未さん（25）は「過去の災害での経験や思いを共有し、各団体の協力しながら活動を深めたい」と意欲を見せた。

防災 女性の視点で ^{10/20}

きおくみらい 消防団員ら意見交換



女性と防災をテーマに語り合う「ほんねカフェ」が、長岡市大手通2の「長岡震災アーカイブセンター」で開かれた。女性消防団員ら約30人が、性ならではの視点を生かした防災活動について話し合った。同市内の女性消防団員や

女性目線で防災活動について話し合った「ほんねカフェ」
|| 長岡市大手通2の長岡震災アーカイブセンターきおくみらい

防災士らでつくる「ながおか女子防災プロジェクト」が主催し、9日に開いた。長岡では、女性消防団「フエニックスレディーズ」や中越市民防災安全士会女性部「シュークリーム」などが活動しており、各団体の連携をさらに強めようと企画した。

カフェでは、「女性だからこそできる防災」や「楽しい防災訓練とは」などをテーマに話し合った。メンバーからは「家員の固定をおしゃれなインテリアでできるといい」「ゲーム形式で訓練をすれば子どもたちが楽しめるのでは」など意見が出た。

フエニックスレディーズに所属する保育士、小熊紗季さん(25)は「さまざまな経験を持つ人たちの意見が聞けて、参考になった。女性目線で防災活動に取り組んでいきたい」と話した。

女子防災力を活かした普及啓発に関する事業

～なごか女子防災プロジェクト～

活動報告書

平成 30 年 3 月

公益社団法人中越防災安全推進機構

地域防災力センター
